

取組内容の令和2年度実施状況と令和3年度取組予定について

九頭竜川・北川大規模氾濫減災協議会
福井県管理河川 嶺北ブロック減災対策協議会
嶺南ブロック減災対策協議会

令和3年6月4日

目次

- 令和2年度、令和3年度の取組内容について P.3
 - 国・県の取組 P.11
 - 国の取組 P.20
 - 県の取組 P.24
 - 市町の取組 P.31
- 要配慮者利用施設における避難確保計画作成状況について P.41
- 水防活動の取組 P.43
- 情報提供(避難勧告・避難指示の一本化、個別避難計画の作成、除外格子の設定、記録的大雨情報の改善、線状降水帯、福井県防災ネット) P.48

令和2年度、令和3年度の取組内容について

国協議会の取組内容(令和2年度までの実績、令和3年度以降の予定)

ハード対策8項目のうち、令和2年度までに8項目を全て、実施しました。(○記載)
(詳細については、国・県取組はP11、国取組はP20で説明します。)

具体的な取組の柱	主な内容		目標時期	令和2年度まで	令和3年度以降
具体的取組【ハード対策】					
■洪水を河川内で安全に流す対策	n1	・江端地区、江上地区の堤防整備	H28年度	○	
	n2	・中藤新保地区等の堤防整備	H32年度	○	
	n3	・片粕地区、水取地区他河道掘削	R2年度	○	
■危機管理型ハード対策	o1	・天端の保護	R2年度	○	
	o2	・裏法尻の補強	R2年度	○	
■避難行動、水防活動に資する基盤等の整備	l1	・早期に氾濫が発生する地域等における洪水時の避難勧告等の発令判断に活用するため簡易水位計・量水標を設置し情報共有	引き続き実施	○	○
	l2	・水防団等の水防活動を支援するためCCTVカメラを設置し情報共有	引き続き実施	○	○
	l3	防災備蓄倉庫の維持を行う	引き続き実施	○	○

国協議会の取組内容(令和2年度までの実績、令和3年度以降の予定)

ソフト対策34項目のうち、令和2年度までに31項目を実施しました。(○記載)
(詳細については、国・県取組はP11、国取組はP20で説明します。)

具体的な取組の柱		主な内容	目標時期	令和2年度まで	令和3年度以降
具体的取組【ソフト対策】					
1. 逃げ遅れをなくす確な避難行動のための取り組み					
■避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成・活用等	c1	・避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成促進	引き続き実施	○	○
	c2	・関係者の役割分担をより明確にしたタイムラインの改良	引き続き実施		○
	c3	・避難のための時間を十分に確保した避難勧告を発令するためのタイムラインの検証と改善(活用訓練等の実施)	引き続き実施	○	○
	c4	・ダム下流河川の避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成	引き続き実施	○	○
	c5	・上記タイムラインの作成支援	引き続き実施	○	○
■ハザードマップの作成・周知等	a1	・想定最大外力を対象とした浸水想定区域図の策定・公表	H28年度	○	
	a2	・ダム下流部の水害リスク図の作成	R2年度	○	
	b1	・想定最大外力を対象とした氾濫シミュレーションの公表	H30年度	○	
	d1	・ハザードマップの更新・周知	引き続き実施	○	○
	e1	・市町を越えた広域避難計画の検討	引き続き実施	○	○
	g1	・災害時における逃げ遅れをなくすため、避難行動要支援者の個別避難計画の作成及び避難訓練の実施	引き続き実施	○	○
	g2	・災害時における逃げ遅れをなくすため、要配慮者利用施設の避難確保計画の作成及び避難訓練の実施	引き続き実施	○	○

国協議会の取組内容(令和2年度までの実績、令和3年度以降の予定)

具体的な取組の柱	主要内容	目標時期	令和2年度まで	令和3年度以降
具体的取組【ソフト対策】				
1. 逃げ遅れをなくす的確な避難行動のための取り組み				
■防災に関する啓発活動、水害(防災)教育の拡充				
	h1 ・「わが家の防災コンテスト」などの参加型の防災啓発活動をさらに進めるため、福井県内の小学生の参加者数が増加するよう、域内全教育委員会に積極的に働きかける	引き続き実施	○	○
	h2 ・防災に関する補助教材を活用した小中学校等と連携した防災に関する出前講座の取組み	引き続き実施	○	○
	h3 ・高齢者の避難行動の理解促進のための地域包括支援センター・ケアマネジャーとの連携	引き続き実施	○	○
	h4 ・指定避難所等までの避難ルートを示した避難マップ(マイ防災マップ)の作成促進	引き続き実施	○	○
	h5 ・住民一人一人の避難計画(マイタイムライン)の作成促進	引き続き実施	○	○
	h6 ・応急的な避難場所確保の必要性について検討	引き続き実施	○	○
	h7 ・河川改修やダムを整備効果の情報提供	引き続き実施	○	○
■避難行動のための情報発信等				
	f1 ・河川水位情報等、住民の避難行動に繋がる情報提供による避難体系の確立	R3年度より実施		○
	f2 ・避難情報を対象者へ確実に届けるためにケーブルテレビや防災メールへの登録、配信サービスやSNSの活用等	引き続き実施	○	
	f3 ・防災対策や住民の避難行動の判断をより分かりやすくするため水位計やCCTVカメラの情報を提供(配信)	引き続き実施	○	
	f4 ・住民の避難行動を促すためプッシュ型の洪水予報等の情報発信のための整備	引き続き実施	○	
	f5 ・洪水予報文の改良と運用	引き続き実施	○	

国協議会の取組内容(令和2年度までの実績、令和3年度以降の予定)

具体的な取組の柱		主な内容	目標時期	令和2年度まで	令和3年度以降
具体的取組【ソフト対策】					
2. 氾濫時に人命と財産を守る水防活動の強化					
■水防体制の強化	j1	・ロールプレイング方式による情報伝達訓練の実施による連絡体制の強化・確認(タイムラインの活用も検討)	引き続き実施	○	○
	j2	・市町を越えた水防訓練の検討 (「市町を越えた広域避難計画の作成後に訓練を実施予定)	R3年度より実施		○
	j3	・水防資機材の備蓄等の着実な確認	引き続き実施	○	○
	i1	・水防団員や消防団員の募集の強化	引き続き実施	○	○
	i2	・自主防災組織の活用、強化 (組織の育成や立ち上げサポート等)	引き続き実施	○	○
■水防活動支援のための情報公開、情報共有	k1	・重要水防箇所の情報共有と関係市町との共同点検の実施	引き続き実施	○	○
3. 一刻も早く災害から復旧するための取り組み					
■排水活動及び施設運用、ボランティア活動等の強化に関する取組	m1	・九頭竜川・北川に関する河川情報等の迅速な状況把握と関係機関への情報提供と共有	引き続き実施	○	○
	m2	・緊急時に早急かつ的確な対応を行うため大規模災害を想定した排水ポンプ車の最適配置計画の作成	H31年度	○	
	m3	・基地被災時を想定した衛星通信車や対策本部車を利用した訓練	引き続き実施	○	○
	m4	・ボランティアの効率的な活動を支援するため、「福井県社会貢献活動支援ネットシステム」の活用できるよう拡充を検討	引き続き実施	○	○

県協議会の取組内容(令和2年度実績、令和3年度予定)

県協議会の取組のうち、令和2年度は37項目のうち、30項目を実施しました。

また、令和3年度も30項目を実施予定です。(○記載)

(詳細については、国・県取組はP11、県取組はP24で説明します。)

項目		取組内容	目標時期	令和2年度	令和3年度
事項					
具体的な取組					
(1) 円滑かつ迅速な避難のための取り組み					
①情報伝達、避難計画に関する事項					
a. 避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成・活用等	a 1	避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成	H29年度		
	a 2	ダム下流河川の避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成	R3年度	○	○
	a 3	タイムラインの検証と改善(更新)	H30年度から実施	○	○
	a 4	関係者の役割分担をより明確にしたタイムラインの作成	R3年度	○	○
	a 5	タイムラインの作成支援	H29年度から実施	○	○
b. 避難行動のための情報発信等	b 1	防災行政無線の活用推進のための検討・促進	R2年度	○	○
	b 2	防災メール、SNSの利用登録促進	引き続き実施	○	○
	b 3	雨量、河川水位、河川監視カメラ映像などの情報を提供(配信)および住民利用促進のための周知・啓発	引き続き実施	○	○
	b 4	氾濫の危険性や切迫度がより伝わるよう洪水予報文の改良と運用	引き続き実施	○	○
	b 5	洪水危険度分布および予測値の利活用促進	H29年度から実施	○	○
	b 6	災害発生のおそれがある場合の首長とのホットラインによる国、県と市町の情報共有	引き続き実施	○	○
	b 7	洪水時のダムの貯水池の状況を伝えるための手段の充実	R2年度	○	○
	b 8	要配慮者利用施設の避難確保計画作成および避難訓練実施の促進支援	R3年度	○	○

県協議会の取組内容(令和2年度実績、令和3年度予定)

項目			目標時期	令和2年度	令和3年度
事項	取組内容				
具体的な取組					
c. ハザードマップの作成・周知等	c 1	想定最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域図等の作成	R元年度		
	c 2	洪水予報河川および水位周知河川以外の県管理河川の水害リスク図の作成	R2年度	○	
	c 3	想定最大規模の降雨を対象としたハザードマップへの更新・周知	R3年度	○	○
	c 4	浸水実績等の周知	引き続き実施	○	○
	c 5	市町を超えた広域避難計画の検討	R3年度		
d. 防災に関する啓発活動、水害（防災）教育の拡充	d 1	小中学校や地域住民への防災に関する出前講座やパネル展の実施	引き続き実施	○	○
	d 2	高齢者の避難行動の理解促進のため、地域域包括支援センター・ケアマネジャー等と連携	R元年度から実施	○	○
	d 3	出水に対するダムや河川改修の効果の情報提供	引き続き実施	○	○
e. 避難行動、水防活動に資する施設等の整備	e 1	早期の避難勧告等の発令判断や水防活動を支援するため、水位計・量水標、河川監視カメラ設置の検討と情報共有	引き続き実施	○	○
	e 2	水位周知河川等の見直し	R3年度	○	
	e 3	氾濫危険水位等の基準水位の見直し	R3年度		
f. 洪水を安全に流す対策	f 1	河川改修の推進	引き続き実施	○	○
	f 2	浚渫、伐木	引き続き実施	○	○
g. 危機管理型ハード対策（堤防決壊までの時間を少しでも引き延ばすための工夫）	g 1	堤防強化	引き続き実施	○	○

県協議会の取組内容(令和2年度実績、令和3年度予定)

項 目		取 組 内 容	目標時期	令和2年度	令和3年度
事 項					
具体的な取組					
	h. ダムの洪水調節機能の強化	h 1 利水者との調整等により事前放流を実施	R2年度から実施	○	○
	i. 水防活動支援のための情報共有	i 1 重要水防箇所の情報共有と関係市町との共同点検の実施	H30年度から実施	○	○
	j. 水防体制の強化	j 1 水防資機材の備蓄等の確認	引き続き実施	○	○
		j 2 水防団員や消防団員の募集の強化	引き続き実施	○	○
		j 3 自主防災組織の活用・強化	引き続き実施	○	○
		j 4 水防訓練の実施による連絡体制の強化・確認(タイムラインの活用も検討)	H30年度から実施	○	○
	k. 洪水時の庁舎等の機能確保のための対策の充実	k 1 庁舎受電設備、非常用発電設備等の浸水対策	R3年度	○	○
	l. 排水活動等の強化	l 1 排水ポンプ車等を用いた排水訓練の実施	引き続き実施	○	○
	m. 災害復旧に対する支援の強化	m 1 福井県災害復旧アドバイザー派遣制度の活用・支援	引き続き実施		
		m 2 大規模災害発生時に緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)の活用	引き続き実施		

国・県の取組

避難行動、水防活動に資する基盤等の整備(国、県)

- ・ 迅速な住民避難につながる情報の充実を図るため、河川監視カメラを12箇所増設しました。令和3年度も引き続き設置を進めます。
- ・ 水門操作を確実にを行うため、360度全方位カメラを増設しました。令和3年度も引き続き設置を進めます。

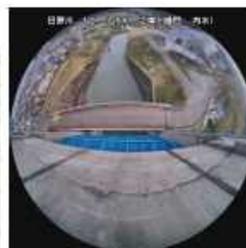
➤ 県：河川監視カメラ(簡易型)を12箇所増設

➤ 国：360度全方位カメラを14箇所増設

(県内の国・県・町の河川監視カメラ合計97⇒109箇所)



九頭竜川水系 江端川水門 (内水)



北川水系 中川水門 (外水)



河川監視カメラ(簡易型)は、低コストで機能を限定
(首振り、ズーム、動画、夜間の赤外線等の機能なし)

360度全方位カメラは、カメラの旋回を行わずに、堤内地と堤外地などを同時に撮影

ハザードマップの作成・周知(国①、県c)

(洪水浸水想定区域図、水害リスク図の指定・公表)

足羽川(池田町内)および井の口川の洪水浸水想定区域を指定・公表しました。
その他の県管理河川の水害リスク図を公表しました。(ダム下流水害リスク図も含む)

- 足羽川(池田町内)および井の口川を水位周知河川として新たに指定し、想定最大規模降雨(千年に一度の確率で発生する大雨)による「洪水浸水想定区域」を指定・公表
- その他河川の「水害リスク図」については、全ての河川について公表

◇洪水浸水想定区域図、水害リスク図 公表河川

(令和2年8月28日時点)

県管理河川数		公表河川名
洪水浸水 想定区域図	洪水予報河川 (全5河川)	・竹田川・日野川・足羽川・笙の川・南川 (日野川と足羽川は、一部水位周知区間を含みます)
	水位周知河川 (全16河川)	・九頭竜川・兵庫川・荒川・江端川・浅水川・鞍谷川・天王川 ・吉野瀬川・赤根川・清滝川・耳川・鱒川・遠敷川・佐分利川 ・関屋川・井の口川
水害リスク図	その他河川 (全170河川)	・田島川・木瓜川・大蓮寺川・狐川・犀川・和田川・越智川 ・服部川・水海川・清水川・木の芽川・野木川・子生川 など
全191河川		

ハザードマップの作成・周知等(国①、県c) (要配慮者利用施設の避難確保計画作成および避難訓練の実施)

施設管理者を対象とした講習会「講習会プロジェクト」を9市町において開催しました。

計画作成義務のある法指定河川について、県内では、勝山市、永平寺町、池田町、美浜町、高浜町、おおい町、若狭町が作成を終了しました。令和3年度末100%を目標として、施設に作成を働きかけます。

計画作成後は、施設が避難訓練を実施し、訓練結果をもとに計画の見直し・改善を図ります。

令和2年度計画作成状況(法指定河川※21河川)

	施設数	計画作成数	計画作成率
想定最大規模 (R3.3)	1,441	900	62.5%

※水防法に規定する洪水予報河川、水位周知河川

令和2年度 講習会プロジェクト開催状況



大野市



小浜市



坂井市

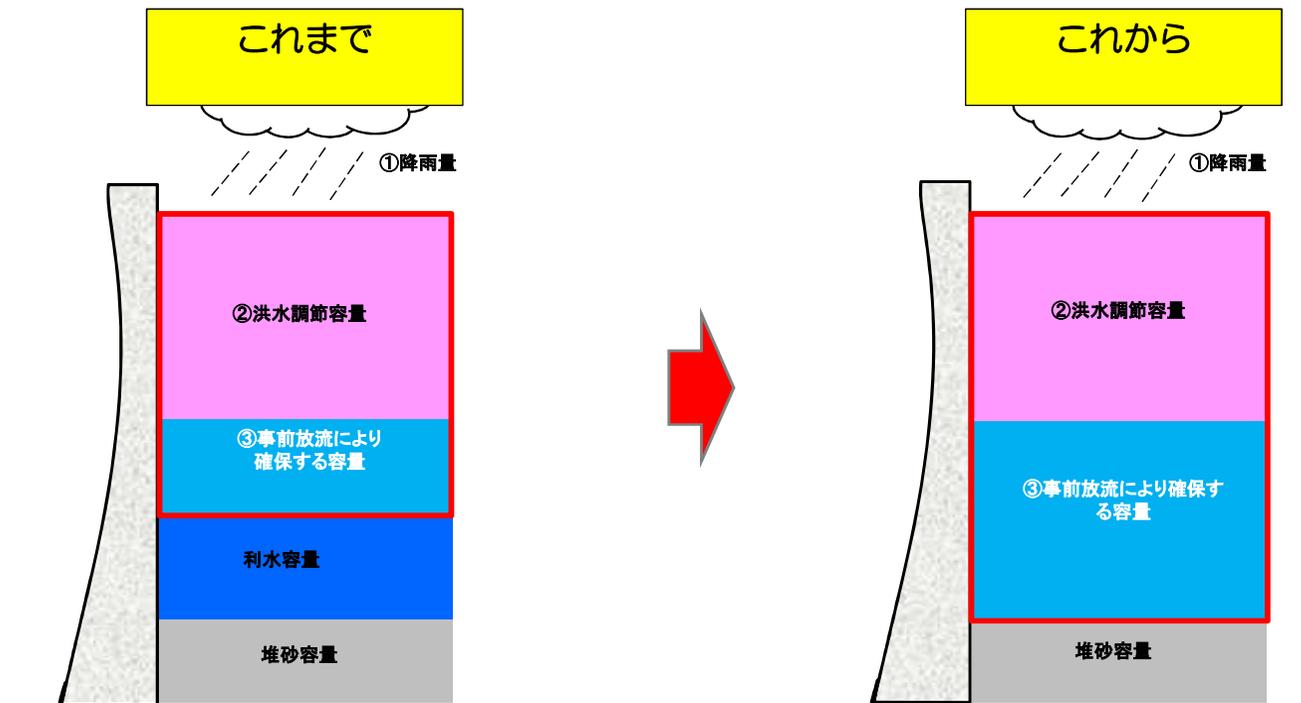
ダムの洪水調節機能の強化(国、県h)

既存ダムの洪水調節機能強化に向け、国管理2ダム(九頭竜川、真名川)、県管理8ダム(龍ヶ鼻、永平寺、浄土寺川、笹生川、榑谷、広野、河内川、大津呂)において事前放流の運用を開始しました。

●国管理・県管理ダム全体で約1.2倍の増強

ダムが満水になる(下流の河川で洪水被害を生じさせる)程の大雨が予想される場合、洪水発生前にダムの利水容量等の一部を放流し、

国・県管理ダム全体で、洪水時にダムに貯められる水の量を一時的に、約1.2倍に増強します。



防災に関する啓発活動、水害(防災)教育の拡充(国①、県d)

小中学校や地域住民への防災に関する出前講座やパネル展の実施

水害等から身を守るための重要性と防災に関する意識向上を図るため、小中学校や地域住民を対象に出前講座を引き続き実施します。



R2.10.20
36人

福井県防災出前講座（越前市岡本小学校）



R2.11.7
50人

永平寺町長防災講座（永平寺町御陵小学校）



R2.10.29
33人

福井県防災出前講座（勝山市成器西小学校）

水防体制の強化(国②、県j)

自主防災組織の活用・強化

自主防災組織の取組の強化を図るため、自主防災組織内のリーダーに対して、防災知識向上や的確な避難行動に関する研修会等を引き続き実施します。



R3.2.12
25人

防災出前講座（小浜市）



R2.8.17
20人

防災出前講習（あわら市）



R3.3.14
59人

自主防災組織研修（おおい町）

洪水を河川内で安全に流す対策(国)

令和2年度は、洪水を河川内で安全に流すため、引き続き河道掘削や堤防整備を実施しました。令和3年度も引き続き実施します。

【国取組】

平成30年度に実施した「重要インフラの緊急点検」を踏まえ、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」(平成30年12月閣議決定)を、平成30年度から令和2年度までの3か年で実施。

令和2年度の実施内容

- ・河道掘削
- ・法尻補強、堤防強化

予防的治水事業の重点化

- ・日野川水防災・湿地創出事業 ※1
- ・九頭竜川・日野川フェニックス堤防整備事業 ※2
- ・北川下流域浸水対策事業 ※3



北川 高塚地区
(水防拠点整備) ※3

日野川 片粕地区 他2地区
(河道掘削) ※1

北川 丸山地区
(河道掘削) ※3

北川 平野地区
(堤防強化)

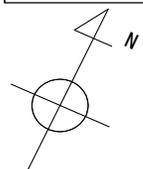


洪水を河川内で安全に流す対策(県f)

令和2年度は、嶺北ブロックでは15河川の河川改修と吉野瀬川ダムの着手、排水機場の老朽化対策等を実施しました。令和3年度も引き続き実施します。

【県取組】

河川改修実施箇所(嶺北ブロック)



放水路工事施工状況
(R2年8月撮影)

洪水を河川内で安全に流す対策(県f)

令和2年度は、嶺南ブロックでは5河川の河川改修等を実施しました。
令和3年度も引き続き実施します。

【県取組】

河川改修実施箇所(嶺南ブロック)



国の取組

防災に関する啓発活動、水害(防災)教育の拡充

「福井豪雨から10年を契機とした啓発活動」の一環として、平成26年度より継続実施している『わが家のぼうさいコンテスト』を県内の小学生とその家族を対象に令和2年度も開催しました。



防災教室、実験コーナー、防災パネル展、起震車体験、受賞作品のパネル展示

第6回表彰式においては、防災教室や福井地方气象台による実験コーナーでの体験学習、福井市による防災パネル展や起震車体験、受賞作品のパネル展示などを行いました。



防災教室



气象台実験コーナー

第7回 わが家のぼうさいコンテストを開催!

福井県内の小学生を対象として、地域の危険な場所や避難場所を盛り込んだ「防災マップ」のコンテストを開催しました。これは小学生に取り組んでもらうことにより、本人をはじめ協力したご家族や地域の方々の防災意識を高めることを目的として平成26年度から取り組んでいます。

応募対象: 福井県内の小学生

募集期間: 令和2年7月下旬～

令和2年10月30日(金)

審査会: 令和2年11月13日(金)

表彰式: 令和2年12月19日(土)

主催: ふくいの水防災を考える会

共催: NHK福井放送局

福井新聞社

後援: 福井県教育委員会



第6回表彰式の様子

最優秀作品 (第6回わが家の防災コンテスト)



受賞者(36名)【応募総数176点】

防災に関する啓発活動、水害(防災)教育の拡充

- ・地域における地形や水害特性を踏まえて、住民がより安全な避難ルートを通って避難所に向かうための一助となる**マイ防災マップ**の作成講座(2日間)を開催しました。
- ・**まち歩き体験**を通じて確認した避難時の危険箇所を踏まえ、ワークショップにて**安全な避難ルート**を参加者全員で考えました。



【事前説明 (1日目)】



【まち歩き体験】



【事前説明 (2日目)】



【マイ防災マップワークショップ】

(福井市森田地区)

防災に関する啓発活動、水害(防災)教育の拡充

- ・住民一人ひとりが、家族構成や生活環境に合わせて、「いつ」「誰が」「何をするのか」をあらかじめ時系列で整理する**マイ・タイムライン**の作成講座を開催しました。
- ・マイ・タイムラインの作成にあたっては、作成サポートツール「**逃げキッド**」を用いてワークショップを実施しました。



R2.10.10
28人

【事前説明】



【マイ・タイムラインワークショップ】



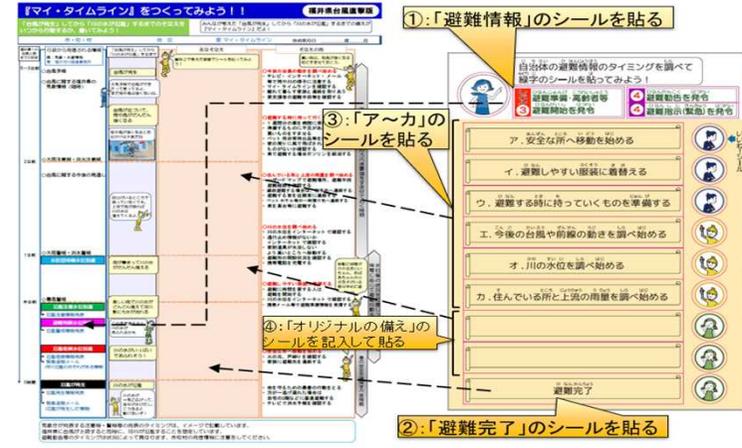
【作成サポートツール「逃げキッド」】



はじめに確認しましょう

- ①マイ・タイムライン作成のためのチェックシート
- ②「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでを知ろう!! (資料1)
- ③「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでの備えを考えよう!! (資料2)
- ④きみだけの『マイ・タイムライン』をつくってみよう!! (シール付き)
- ⑤みんなでつくろう! マイ・タイムライン ~マイ・タイムラインをつくるためのヒント集~
- ⑥ご自宅に戻ったらみなおしてみよう

(福井市森田地区)



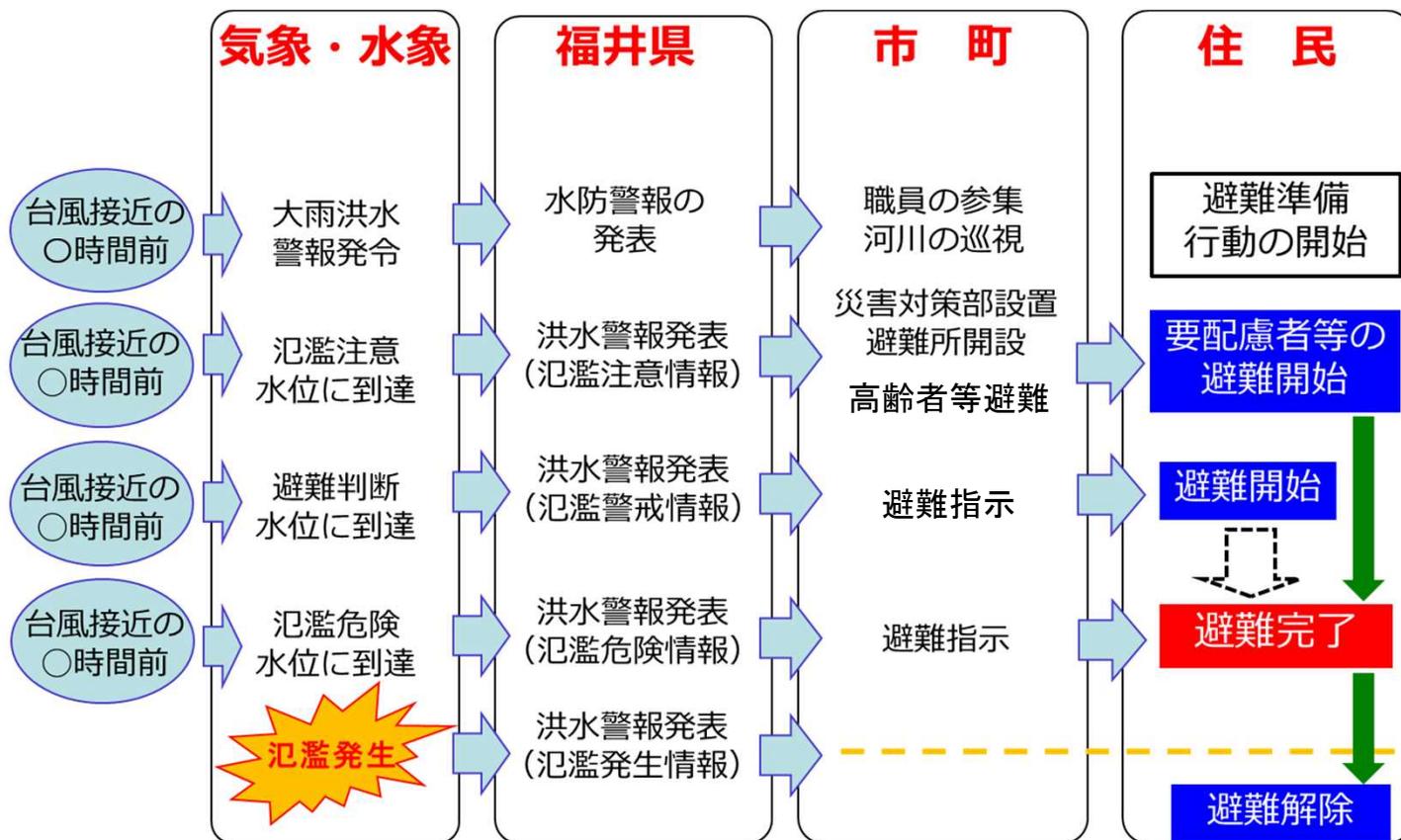
【マイ・タイムラインの作成イメージ】

県の取組

a. 避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成・活用等

a2 タイムラインの検証と改善

H30年6月に策定した県管理河川における避難勧告等の発令に着目したタイムラインについて、県内すべての市町で検証を行い、4市町において改善を行いました。令和3年度も検証を行い、引き続きよりよいものに改善します。



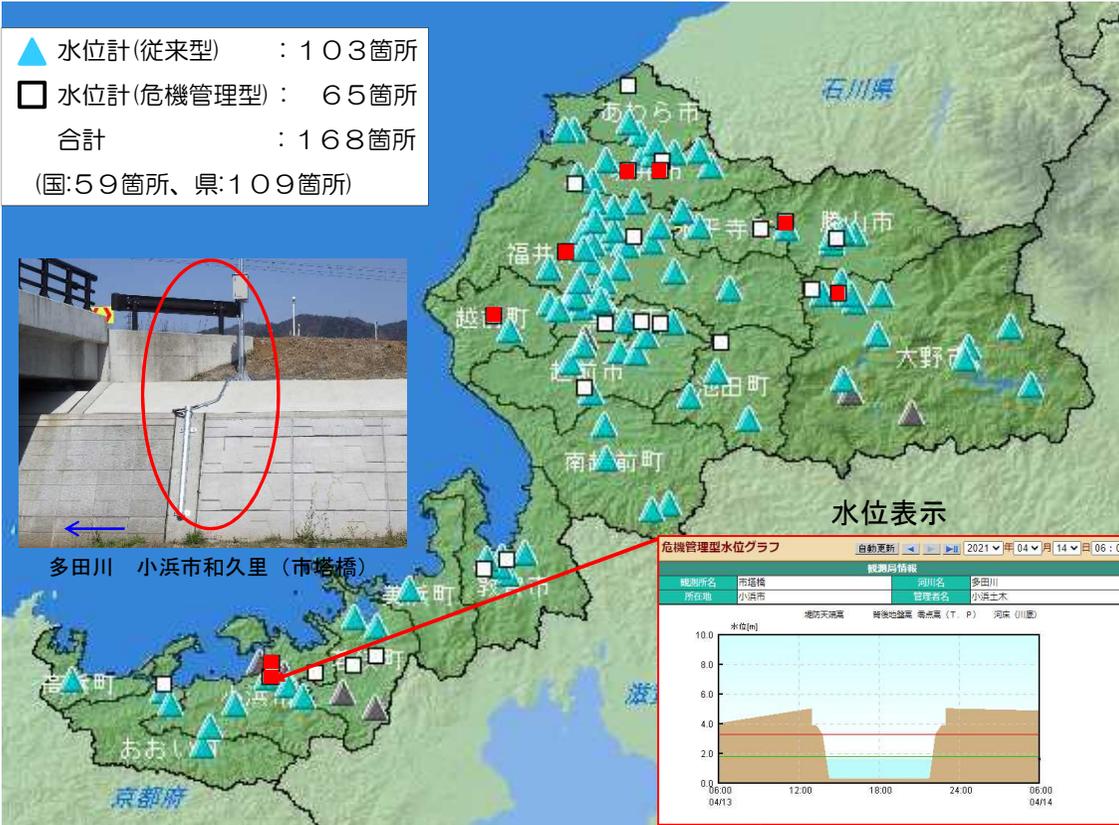
e. 避難行動のための情報発信等

e1 河川水位の情報を提供(配信)

迅速な住民避難につながる情報の充実を図るため、令和2年度は水位計を8箇所追加しました。令和3年度も引き続き実施します。

➤ 県の水位計(危機管理型)を8箇所追加

(県内の国・県の水位計合計 160 ⇒ 168箇所)



県の水位計(危機管理型)一覧 赤囲いが新規8箇所

番号	観測所名	河川名	所在地	観測者名	新設改良年度
1	内山梨子	七瀬川	福井市内山梨子町	福井土木	H30
2	松城	古川	福井市松城町	福井土木	H30
3	石上	河内川	吉田郡永平寺町石上	福井土木	H30
4	長歌	五味川	坂井市丸岡町長歌	三国土木	H30
5	北湯	北湯湖	あわら市北湯	三国土木	H30
6	中央公園	大蓮寺川	勝山市元町1丁目	奥越土木	H30
7	牛ヶ原	日詰川	大野市牛ヶ原	奥越土木	H30
8	上河端	穴田川	鯖江市上河端町	丹南土木(鯖江丹生)	H30
9	河和田	天神川	鯖江市河和田町	丹南土木(鯖江丹生)	H30
10	持越	足羽川	今立郡池田町持越	丹南土木	H30
11	下平吹	大塩谷川	越前市下平吹町	丹南土木	H30
12	木ノ芽橋	木の芽川	敦賀市東洋町	敦賀土木	H30
13	井崎橋	ハス川	三方上中郡若狭町井崎	敦賀土木	H30
14	朝霧	鳥羽川	三方上中郡若狭町大鳥羽	小浜土木	H30
15	新保橋	野木川	小浜市新保	小浜土木	H30
16	本郷橋	佐分利川	大飯郡おおい町本郷	小浜土木	H30
17	戸口	河和田川	鯖江市戸口町	丹南土木(鯖江丹生)	R1
18	樋ノ詰橋	井の口川	敦賀市筋生野	敦賀土木	R1
19	志津川橋	志津川	福井市和田町	福井土木	R2
20	福島	兵庫川	坂井市坂井町福島	三国土木	R2
21	霞町	田島川	坂井市丸岡町富田町	三国土木	R2
22	東野	畝見川	勝山市北郷町東野	奥越土木	R2
23	中挾	清滝川	大野市中挾1丁目	奥越土木	R2
24	織田	織田川	丹南郡越前町織田	丹南土木(鯖江丹生)	R2
25	市塔橋	多田川	小浜市和久里	小浜土木	R2
26	羽賀	江古川	小浜市羽賀	小浜土木	R2

水位計(危機管理型)は、小型・低コストで洪水時のみの水位観測に特化

c. ハザードマップの作成・周知

c3 想定最大規模の降雨を対象としたハザードマップへの更新

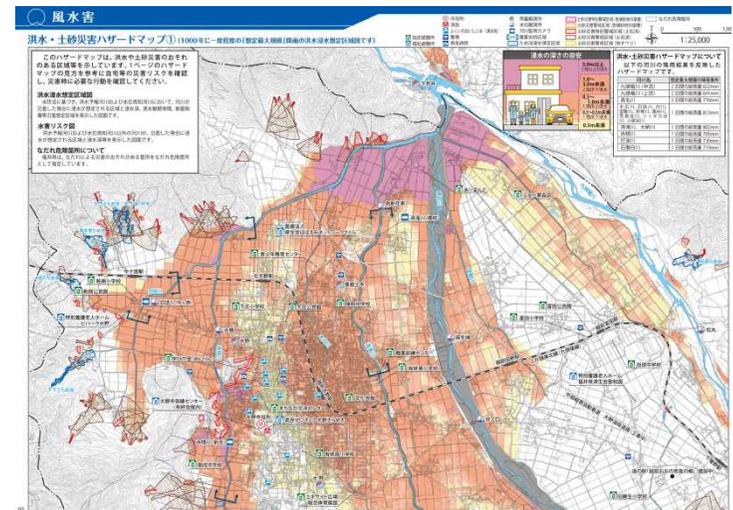
県管理河川の洪水浸水想定区域の公表を受け、14市町が洪水ハザードマップを作成・公表しました。

全市町において、令和3年度末までのハザードマップ（法指定河川とその他河川を含む）の作成・公表に向け、県は市町担当者説明会を開催し、作成の支援を行います。

ハザードマップ作成状況（法指定河川とその他河川を含む）

	令和2年度	令和3年度
完成	9市町 (南越前町、法指定河川のみ)	8市町 (全市町完成)

※令和3年5月末時点で14市町(南越前町は法指定河川のみ)で作成、公表



大野市洪水ハザードマップ

c. ハザードマップの作成・周知等

c4 浸水実績等の周知

県ホームページ(福井県河川砂防総合情報システム)で公開している「水害ハザード情報」の浸水想定区域図において、任意箇所の最大浸水深を表示することが可能となりました。また、想定最大規模と計画規模の2パターンを比較することが可能となりました。

The screenshot displays the '水害ハザード情報' (Flood Hazard Information) system. The main map shows a flood hazard area with a callout box indicating 'この場所の詳細情報を表示' (Display detailed information for this location). A detailed view of a house shows the maximum flood depth for the '想定最大規模' (Assumed Maximum Scale) is 4.44m. The house is divided into three vertical zones: 0.5m to 3.0m (yellow), 3.0m to 5.0m (orange), and above 5.0m (red). A legend on the right lists various hazard types and their corresponding colors. A scale bar at the bottom indicates 0, 0.5, and 1 Km.

凡例	
■ 洪水浸水想定区域(想定最大規模)	
0.5m未満	黄色
0.5~3.0m未満	オレンジ
3.0~5.0m未満	赤
5.0m以上	赤
■ ハザードマップ関連	
避難所	緑
緊急避難場所	緑
福祉避難所	紫
地下空間	赤
水防倉庫	赤
水位観測所	青
雨量観測所	青

f. 洪水を安全に流す対策

g. 危機管理型ハード対策

f2 浚渫、伐木 g1 堤防強化

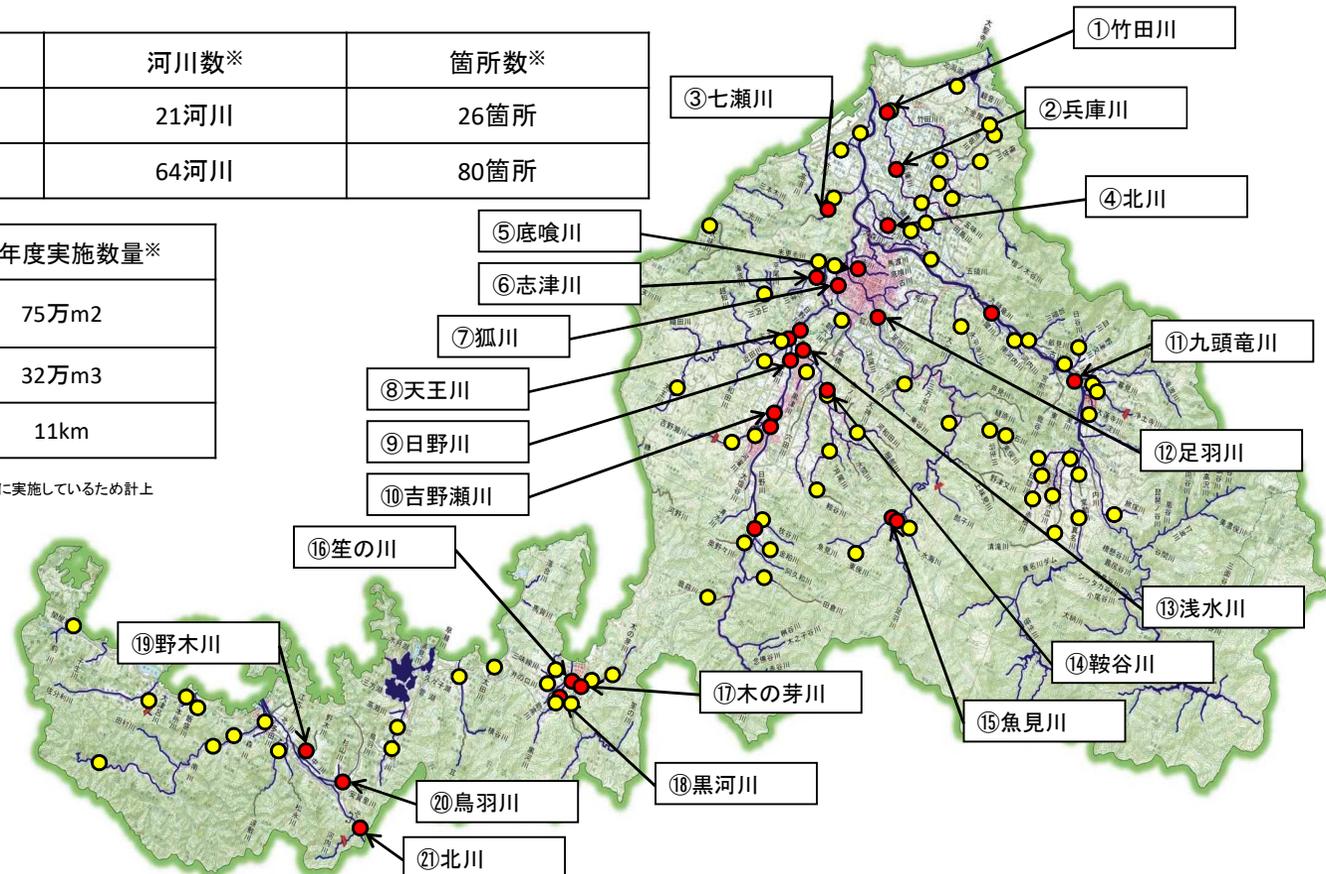
○安全に洪水を流下させるために「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」の交付金、「緊急浚渫推進事業債」を活用し、堆積土砂撤去、樹木伐採、堤防強化、河川の改修等を実施しました。今年度も「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の交付金、「緊急浚渫推進事業債」等を活用し、引き続き実施します。

R2年度実施箇所

	河川数※	箇所数※
● 3か年緊急対策	21河川	26箇所
● 緊急浚渫推進事業債	64河川	80箇所

	R2年度実施数量※
樹木伐採（全体約300万m ² ）	75万m ²
堆積土砂撤去	32万m ³
堤防強化（天端舗装）	11km

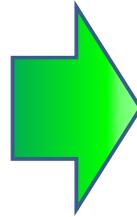
※R1補正は強靱化ではないが、3か年緊急対策の期間中に実施しているため計上



f. 洪水を安全に流す対策 g. 危機管理型ハード対策

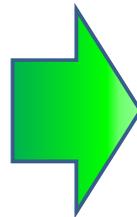
伐木実施事例

日野川（南越前町）



堤防強化実施事例

笙の川（敦賀市）



市町の取組

「地域防災マップ」作成研修会の開催(令和3年度～)

自主防災組織を対象とした「地域防災マップ」の作成研修会を開催し、自主防災組織の取組の強化を図る。

	内容	備考
第1回	防災マップ等の作成のノウハウについて研修	
第2回	まち歩き指導	
第3回	合同マップ作成会	
	区に持ち帰り、協議・検討・確認など	
第4回	合同マップ作成会[完成]	区で検討したこと等を盛り込んで完成

研修内容 (全4回)



まち歩き指導 (イメージ)

民間団体等との協定による物資・避難所の充実(独自)

鯖江市

民間団体等との協定を結び、事前に協力体制を整えることで、災害時における、物資調達や避難所の充実が図られました。

協定先	内容
福井県旅館ホテル生活衛生同業組合 鯖江支部	要配慮者等に宿泊施設の提供
トレーラストایل福井店	要配慮者等に宿泊施設の提供 (トレーラーハウス)
藤田光学(株)	要配慮者等に宿泊施設の提供 (コンテナハウス)
(株)山岸	生活物資等の提供
(株)ニホンパッケージ	ダンボールベッド等の提供
KOSEI(株)	自走式水洗トイレの提供



トレーラーハウス



ダンボールベッド



コンテナハウス



自走式水洗トイレ



福井県旅館ホテル生活衛生同業組合鯖江支部との協定



(株)三和電工社と地元町内会との災害時協定

洪水時に逃げ遅れた住民が避難する「一時待避協力事業所」の中から(株)三和電工社をはじめとした6事業所が、地区と協定を結びました。

(福井県地域・企業防災連携推進事業)

要配慮者利用施設の避難確保計画作成および避難訓練実施の促進支援

市内で避難確保計画の作成を要する施設に対して、市において、施設毎の避難確保計画素案を作成し配布しました。

11月の講習会プロジェクトの際には、事前に配布した素案を基に講習を行い、各施設で必要な個所を修正し提出を促しました。(令和元年度0%→令和2年度79.2%)

【あわら市】

高齢者福祉施設
避難確保計画(案)

対象災害：水害（洪水）

【施設名： ██████████ 】

███年███月作成

様式2

4 西沢体制

図1 避難確保計画の作成手順（案）

図1 避難確保計画の作成手順（案）	内容	備考
1. 避難確保計画の作成	避難確保計画の作成	
2. 避難確保計画の作成	避難確保計画の作成	
3. 避難確保計画の作成	避難確保計画の作成	

※ 避難確保計画は、避難確保計画の作成手順（案）に基づき作成してください。

※ 避難確保計画は、避難確保計画の作成手順（案）に基づき作成してください。

※ 避難確保計画は、避難確保計画の作成手順（案）に基づき作成してください。

別紙1

【施設周辺の避難地図】

洪水時の避難場所、避難経路は以下のものとする。

避難場所1	避難場所2	屋内の避難所
洪水	洪水	洪水

※ 避難場所の位置、避難場所の位置、避難経路、移動手段（徒歩、自動車等）を記載。避難場所については、避難訓練等により避難できることを確かめ、必要に応じて変更するものとする。

★施設毎の避難確保計画素案の作成
講習会プロジェクト開催前に作成し各施設に配布

★講習会プロジェクトの開催
(11月12日@中央公民館)
施設毎に作成、配布した素案を基に講習を実施

34

「新しい避難方法の検討会」の開催(令和2年度～)

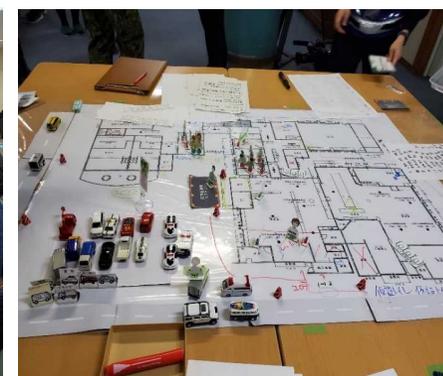
要配慮者が避難する福祉避難所のガイドラインを作成し、すみやかに避難できる方法と安心した避難生活への環境改善に取り組む。

	内容	備考
第1回	コロナ禍における避難所・福祉避難所の課題	
	福祉避難所視察	永平寺町内6カ所
	高齢者・障害者ヒアリング	入所までの問題・施設設備・支援者など
	ワーキング(2回開催)	避難および福祉避難所の現状分析、課題整理
第2回	避難および福祉避難所の現状分析、課題整理	
第3回	課題と対応策を検討	
第4回	講演会 「災害に学び、災害に備える」	室崎益輝氏 (地区防災計画学会)
	図上訓練(永寿苑)	福祉避難所訓練
第5回	令和2年度の報告および3年度の予定	福祉避難所ガイドライン作成(R3. 8)

検討内容(全5回)



第1回 検討会



図上訓練(永寿苑)

地理院地図における自然災害伝承碑の掲載(R2年度)

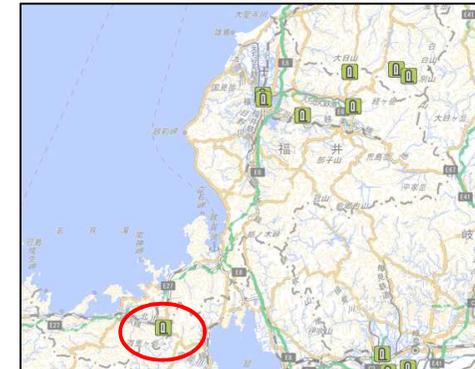
■自然災害伝承碑とは

自然災害伝承碑の情報を地形図等に掲載することにより、過去の自然災害の教訓を地域の方々に適切にお伝えし、教訓を踏まえた的確な防災行動による被害の軽減を目指すもの

十三号台風水害記念	
概要	
碑名	十三号台風水害記念
災害名	昭和28年台風13号 (1953年9月25日)
災害種別	洪水・土砂災害
建立年	不明
所在地	福井県三方上中郡若狭町 河内1-4-10
伝承内容	昭和28年(1953)9月25日、台風13号が若狭地方を襲い、数日来降り続いた豪雨により、周囲を山で囲まれた河内地区では山崩れと河内川の氾濫で全集落69戸の大半が土砂と濁流にのまれ、11名の命が奪われるというかつてない大水害となった。



ID:18501-001



民間施設を活用し、避難場所を確保

民間商業施設との協定を締結し、避難場所の確保に努めました。

・大型商業施設との災害時相互応援協定の締結②(R2.12.14)

地震や洪水等の大規模災害時における避難者や帰宅困難者対策として、大型商業施設「協同組合福井ショッピングモール」および「ユニー株式会社アピタ福井大和田店」と立体駐車場を含む避難場所と生活物資等の提供に関する協定を締結した。



外国人市民防災リーダーの育成

外国人が「災害弱者」にならないために外国人市民防災リーダーを育成しています。

越前市の総人口の6%、約5000人の外国人が越前市に暮らしていますが、言葉の壁から情報弱者となる外国人に対して、災害時、市から発信する避難情報が、どのように伝わり、その内容がどこまで理解されているか課題があります。

そこで越前市では、市内で暮らす外国人の中から、「外国人市民防災リーダー」を養成することで、外国人コミュニティを活用した情報伝達や防災意識の啓発の担い手になっていただき、外国人と日本人が共に助け合い、防災・減災に取り組むまちを目指しています。

●外国人市民防災リーダーの役割

【平常時】

防災に関する知識などの啓発活動、地域の防災活動への参画

【災害時】

フェイスブックなどのSNSを用いた情報発信活動、避難場所での通訳など協力活動



(左)養成研修会で水防活動について学ぶ受講生

(右)オレンジ色のベストと帽子を身に着け、地区防災訓練に参加する外国人市民防災リーダー

洪水時の庁舎等の機能確保のための対策の充実(県k)

越前町

k1 庁舎受電設備・非常用発電設備等の浸水対策

非常用発電設備を3階に設置し、洪水時の庁舎機能確保の対策を行いました。

また、庁舎1階には防水板を設置できるように、切り欠きを設けました。

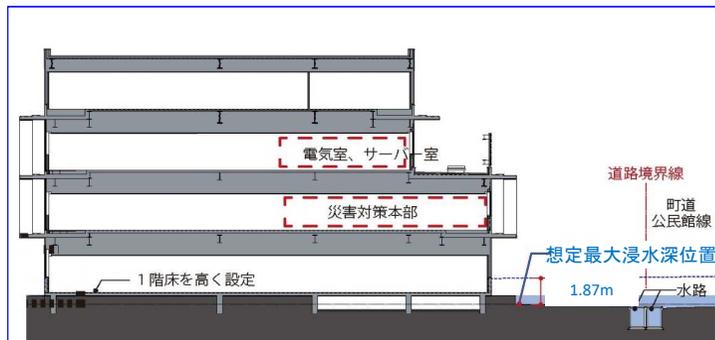
【越前町役場】



非常用発電設備を想定最大浸水深(1.87m)以上の3階に設置



非常用発電設備



1階の可動扉に設置する防水板



防水板設置用の切り欠き(正面玄関)

要配慮者利用施設における避難確保計画 作成状況

要配慮者利用施設における避難確保計画作成状況(令和3年3月末)

市町	浸水想定区域内 の施設数 (施設)	左記のうち、 計画作成済み (施設)	作成率
福井市	712	409	57.4%
敦賀市	136	118	86.8%
小浜市	69	59	85.5%
大野市	48	40	83.3%
勝山市	7	7	100.0%
鯖江市	118	68	57.6%
あわら市	24	19	79.2%
越前市	94	91	96.8%
坂井市	169	35	20.7%
永平寺町	11	11	100.0%
池田町	4	4	100.0%
南越前町	22	15	68.2%
越前町	10	7	70.0%
美浜町	2	2	100.0%
高浜町	3	3	100.0%
おおい町	5	5	100.0%
若狭町	7	7	100.0%
合計	1441	900	62.5%

県協議会での計画作成率目標

- ・令和2年度末 75%
- ・令和3年度末 100%

水防活動の取組

水防活動支援のための情報共有(国②、県i)

重要水防箇所の情報共有と関係市町との共同点検の実施

河川管理者と関係市町が共同で重要水防箇所の点検を実施し、情報共有を図りました。
引き続き、共同点検を実施し、水防活動、住民避難に役立てていきます。



大野市



勝山市

水防体制の強化(県)

水防資機材の備蓄等の確認

的確な水防活動が実施できるよう出水期前に水防倉庫内の資機材の備蓄状況について点検を行いました。

引き続き、水防資機材等の適切な配備に努めていきます。



R2.6.4

点検状況(敦賀市)



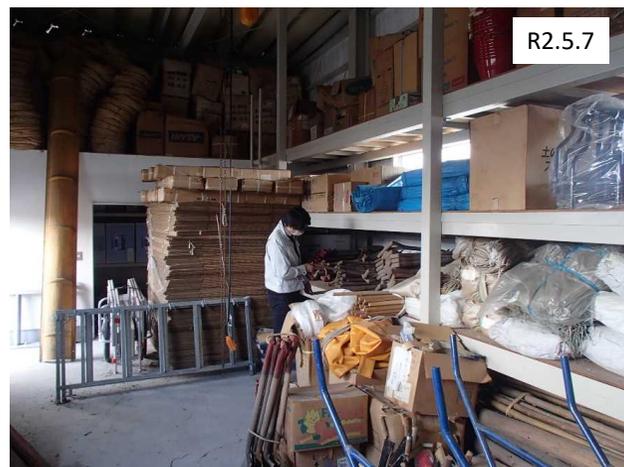
R2.5.13

点検状況(大野市)



R2.5.29

点検状況(坂井市)



R2.5.7

点検状況(おおい町)

水防体制の強化(県)

水防団員や消防団員の募集の強化

水害から人命や財産を守る水防活動の担い手を確保するため、水防団員や消防団員の募集活動や広報を行いました。



ポスターによる消防団員募集(若狭町)



水防月間チラシによる水防団員募集(国土交通省)

水防体制の強化(県j)

水防訓練の実施による連絡体制の強化・確認

関係市町において、消防職員、市町職員、住民による水防訓練を実施し、水防体制の強化を図りました。

引き続き、水防訓練を実施し、洪水時の被害軽減に努めていきます。



敦賀市(R2.11.14 110名参加)



坂井市(R2.7.21 40名参加)

情報提供

避難勧告・避難指示の一本化について

新たな警戒レベルの一覧表

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報		
			従来	改正法施行後	
5	災害発生 または切迫	命の危険 直ちに安全確保！	災害発生情報※1	緊急安全確保※1	※A
~~~~~ <警戒レベル4までに必ず避難！> ~~~~~					
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	・避難指示(緊急) ・避難勧告	避難指示(注)	※B
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※3	避難準備・高齢者等避難開始	高齢者等避難	※B
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水注意報等 (気象庁)	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)	

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない。

※2 避難指示(緊急)は、必ず発令されるものではなく、緊急的にまたは重ねて避難を促したい場合に発令される。

※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人にも必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングである。

(注)避難指示は、現行の避難勧告のタイミングで発令する。

警戒レベルを一覧表記する際の工夫例

※A 警戒レベル5は命の危険が極めて高く警戒レベル4までとは異なる段階であることを示すため、警戒レベル5と4以下の間に区切り等を設ける。また、区切り部分にその区切りの趣旨を可能な限り記載する。

※B 警戒レベル4または3が発令されるタイミングで避難することが重要であるため、警戒レベル4および3を強調する。

# 個別避難計画の作成について

---

## ○個別避難計画作成に係る災害対策基本法改正のポイント

1. 市町に対し、避難行動要支援者についての個別避難計画作成を努力義務化。  
※ただし、計画作成について避難行動要支援者の同意が得られない場合は、この限りでない。
2. 個別避難計画には、避難支援者の氏名または名称、住所、連絡先等を記載する。
3. 避難施設その他の避難場所および避難路その他の避難経路に関する事項。
4. 福祉避難所で受け入れるべき要配慮者を事前に調整の上、個別避難計画を作成し、直接避難できるよう努める。

# 除外格子の設定（福井地方気象台）

【令和3年6月3日より】

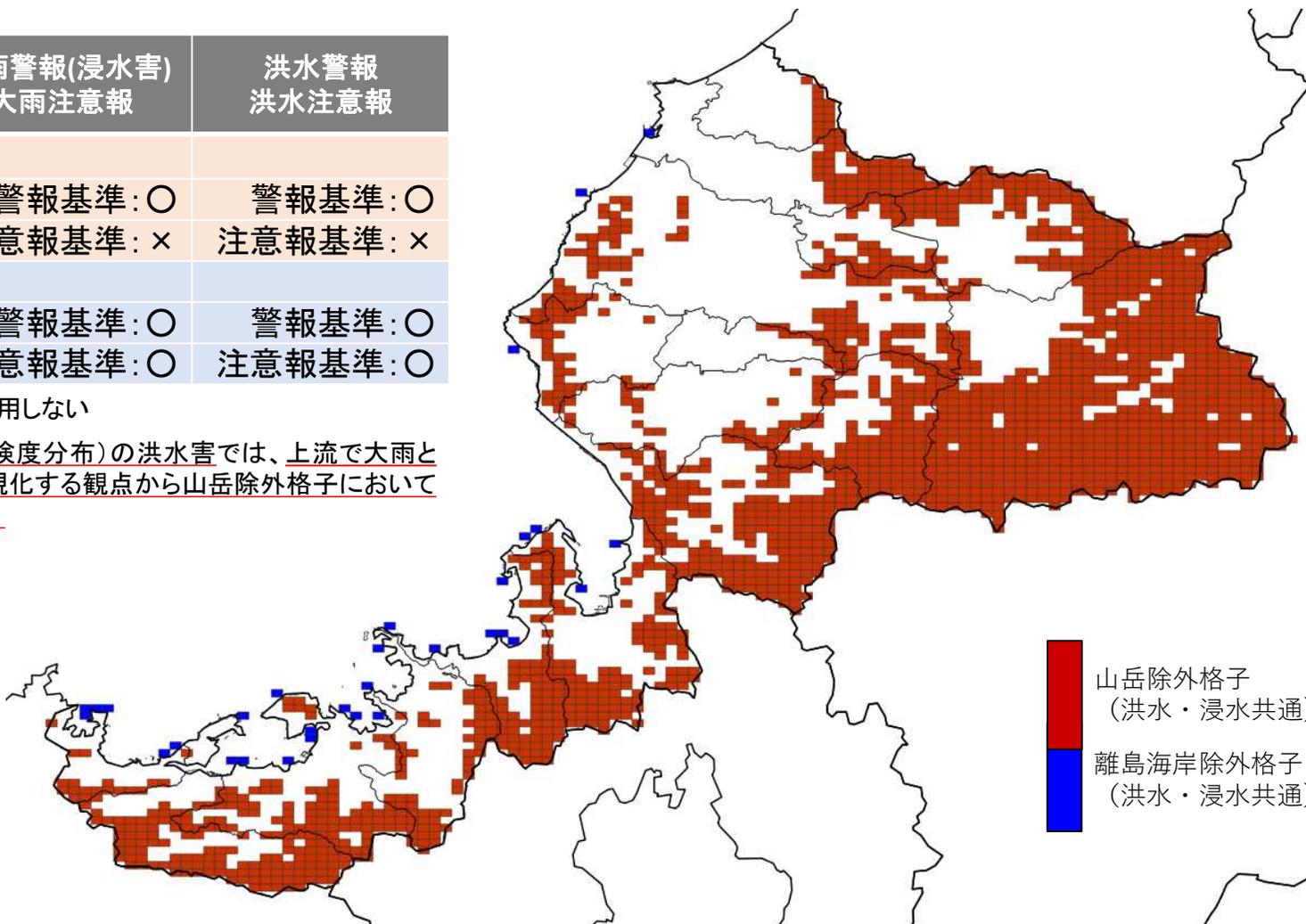
市町村の避難指示や住民の自主避難等の判断に警報・注意報をより一層ご活用いただくため、**大雨警報（浸水害）と洪水警報の基準に除外格子を導入しました。**

除外格子の導入により、災害に対する警報・注意報の空振りが減ることが想定され、避難指示など自治体の防災対応において、より使いやすい警報・注意報になることが期待されます。

	大雨警報(浸水害) 大雨注意報	洪水警報 洪水注意報
山岳 除外格子	警報基準：○	警報基準：○
	注意報基準：×	注意報基準：×
離島海岸 除外格子	警報基準：○	警報基準：○
	注意報基準：○	注意報基準：○

○：適用する ×：適用しない

但し、キキクル(危険度分布)の洪水害では、上流で大雨となっている状況を可視化する観点から山岳除外格子においても危険度を表示する。



山岳除外格子  
(洪水・浸水共通)

離島海岸除外格子  
(洪水・浸水共通)

- 記録的短時間大雨情報は、大雨警報発表中に、現在の降雨がその地域にとって土砂災害や浸水害、中小河川の洪水災害の発生につながるような、稀にしか観測しない雨量であることを伝えることで、どこで災害発生の危険度が高まっているかを「危険度分布」で確認し、自主的な安全確保の判断を促すもの。
- 記録的短時間大雨情報を、当該市町村が警戒レベル4相当の状況となっている場合にのみ発表することで、災害発生の危険度が急激に上昇し、速やかな安全確保が必要な状況となっていることを適切に伝えられるよう改善。

## これまで

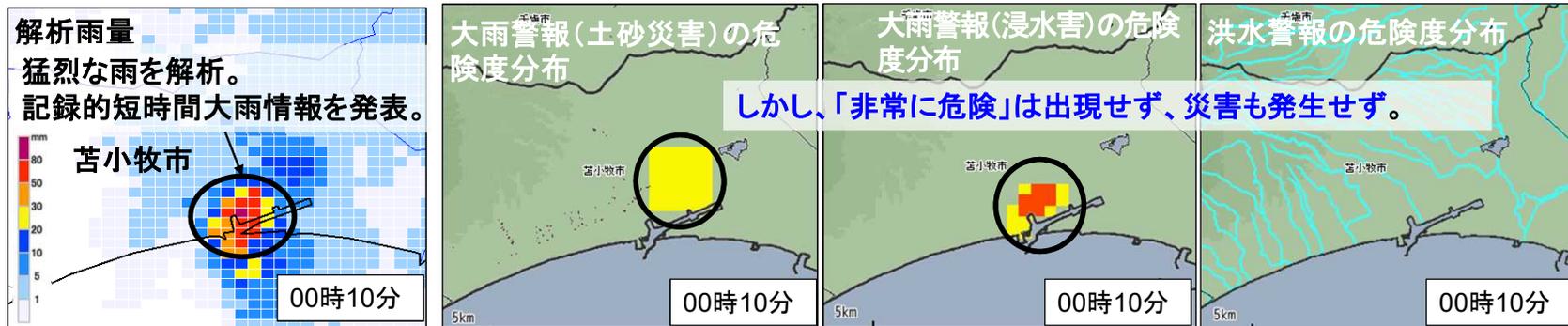
大雨警報を発表中に、記録的短時間大雨情報の基準に到達したときに発表。

災害発生と結びつきが強い情報に改善

## 改善後

危険度分布で「非常に危険」（警戒レベル4相当）以上が出現し、記録的短時間大雨情報の基準に到達したときにのみ発表する。

### 令和元年11月12日の胆振地方の例



「危険度分布」の危険度を発表条件に加えることで、災害発生の危険度が急激に上昇し、速やかな安全確保が必要な状況となっていることが伝わるように改善。

# 「顕著な大雨に関する情報」の運用開始（福井地方気象台）

【令和3年6月17日予定】

## 線状降水帯に関する情報のコンセプト

### ● 背景 ～なぜ始めるのか～

毎年のように線状降水帯による顕著な大雨が発生し、数多くの甚大な災害が生じています。この線状降水帯による大雨が、災害発生危険度の高まりにつながるものとして社会に浸透しつつあり、線状降水帯による大雨が発生している場合は、危機感を高めるためにそれを知らせてほしいという要望があります。

### ● 位置づけ ～情報のコンセプト～

大雨による災害発生危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報です。

※ この情報は警戒レベル相当情報を補足する情報です。警戒レベル4相当以上の状況で発表します。

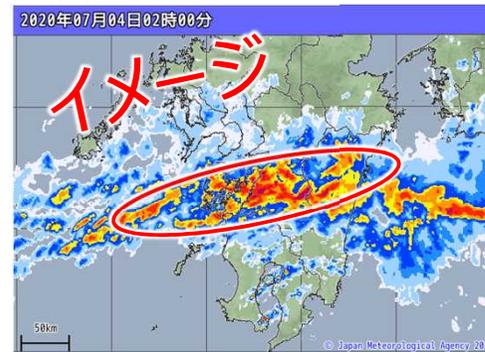
※ この情報により、報道機関や気象キャスター等が「線状降水帯」というキーワードを用いた解説がしやすくなることが考えられます。既存の気象情報も含めて状況を的確にお伝えすることにより、多くの方々に大雨災害に対する危機感をしっかり持っていただくことを期待します。

## 線状降水帯に関する情報のイメージ

### 顕著な大雨に関する〇〇県気象情報

〇〇地方、〇〇地方では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続けています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生危険度が急激に高まっています。

## 線状降水帯に関する情報を補足する図情報のイメージ



○ 大雨災害発生危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域

※ 「雨雲の動き」（高解像度降水ナウキャスト）の例。

# 福井県防災ネット(福井県防災情報システム)機能概要について

## ① 県民向け防災情報ホームページのリニューアル

今まで、テキストベースで公開していた防災情報ホームページを刷新  
地図上で気象情報や避難情報、道路情報等の防災情報を一元的に把握できるように構築  
公共交通機関の運行状況についてもリアルタイムで公開

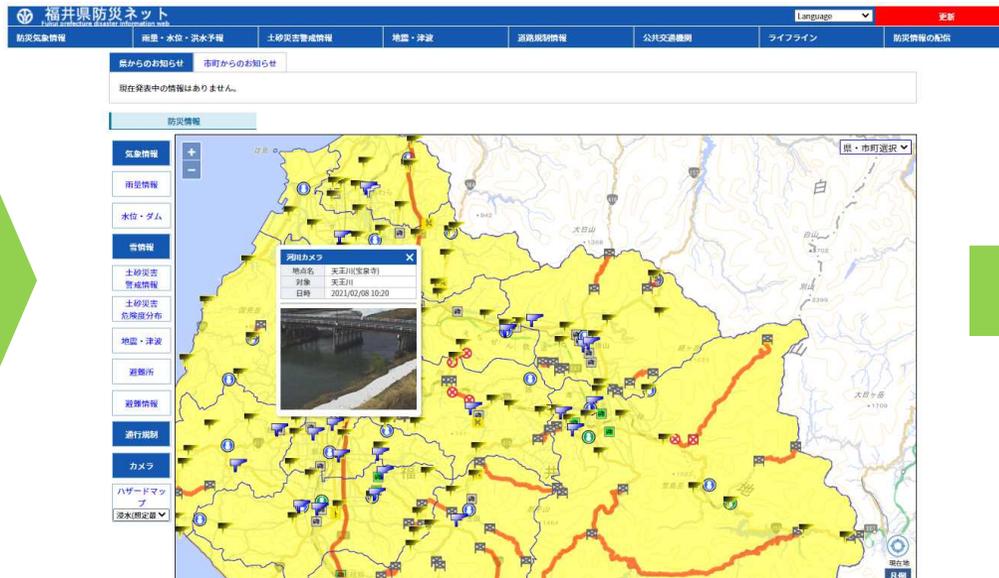
気象情報

道路情報

河川・砂防情報

避難情報

ハザードマップ



その他情報発信手段



SNSへの情報発信



緊急速報メールの配信

エリアメール



Lアラートへの配信  
マスコミを通じたテレビ、ラジオ  
による情報発信



福井県防災ネット

<https://www.bousai.pref.fukui.lg.jp>

# 福井県防災ネット(福井県防災情報システム)機能概要について

## ② 気象、避難情報、河川水位等の防災情報を一元管理

各種防災情報を集約し、地図上に表示。

今まで複数のシステムで確認していた情報を一つのシステムで確認できるので、災害情報の共有はより迅速に可能。

The screenshot displays the Fukui Prefecture Disaster Net interface. The main map shows various disaster information icons overlaid on a geographical map of the region. Two windows are open on the right side:

**水位グラフ - 礪場 - Microsoft Edge**

▲ セキュリティ保護なし | ame.pref.fukui.jp/bousai/ser/vlet/bousaiweb.servlet...

水位グラフ

観測所名	名称	河川名	日野川
所在地	礪江川	観測所名	礪江川

観測データ (02/07 12:00—02/08 11:00)

月/日	02/07	02/08
時:分	02:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00	02:00 03:00 04:00 05:00 06:00
水位	1.19 1.19 1.19 1.19 1.19 1.20 1.2	1.21 1.21 1.21 1.22 1.20 1.20 1.2

**画像表示 - 礪場 - Microsoft Edge**

▲ セキュリティ保護なし | ame.pref.fukui.jp/bousai/ser/vlet/bousaiweb.servlet...

観測時刻 2021年02月08日 10:30

※河川監視の都合上、普段と異なる地点を表示することがあります。



# 福井県防災ネット(福井県防災情報システム)機能概要について

## ④ 市町と同報無線との自動連携による避難情報等の自動配信

福井県防災ネットに入力した、避難指示等の避難情報や避難所開設等の情報を自動的に防災無線で放送。

